

令和7年度

川内南小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 分かりやすい発問により、児童の思考を深める授業の実践
- 認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

校長

菊本 佳孝

学力向上推進員

眞井 裕生

【各校の取組状況の把握について】

研究授業による授業研究と授業研究会における報告・情報交換

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付き、与えられた課題にも真面目に取り組める児童が多い。 ●活用力が弱く文章中に漢字が使えなかったり、使い方が変わると書けなかったりする児童がいる。学習の習熟度に開きがあり、複雑な計算について途中で諦めてしまう児童がいる。家庭学習等で反復練習の必要がある。	・学習の過程を通して習得した知識が既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・課題に根気強く取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。	・日記指導の充実と家庭学習の徹底を図る。 ・授業では、めあての確認、ふり返り、まとめの充実を図る。 ・朝の活動時間に漢字や計算等、基礎的・基本的な内容の学習を行う。 ・個に応じた(特に進んだ児童)指導の工夫をする。 ・タブレットを活用した学習の工夫をする。	なし	・家庭学習の習慣が身につくように、個に応じた指導を行った。 ・板書やノート指導、掲示を工夫し、めあてや学習内容の振り返りがいつでも行えるようにした。 ・タブレットを活用し、習熟度に応じた学習を進めることができた。 ・プリントを活用し、本人にも達成度が分かるように、繰り返し学習を行った。 ・漢字や計算の学習内容を一斉に振り返る時間を設け、理解の定着を図った。	・思考を促す問い(発問)の工夫や、ICTを活用したテストの利用など、効果的な指導の工夫の共有をする。 ・つまづいたときにいつでも確認できるような掲示やヒントカード等の工夫をする。 ・個に応じた指導や、技能定着を目指した学習の進め方は、次年度も継続して取り組む。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○目標が明確で、見通しの立つ課題をやり遂げようと努力する。 ●既習事項や経験をもとに考えたり、考えたことを言葉で説明したりする力に課題がある。	・課題解決への見通しを持ち、根拠をもとにして、自分の考えを分かりやすく話したり、書いたりすることができる。 ・自分の考えを持ち、友達の考えを聞くことができる。	・児童の実態に応じた教材開発を行う。 ・特別活動の時間を中心に話し合い活動の充実を図る。 ・各教科、ペアワーク、グループワークを取り入れるなど、指導方法を工夫する。 ・授業の中で、自分の考えをまとめて書く時間を意図的に設ける。	なし	・校内研修では、人権学習や社会科の授業研究会を行い、研修内容を授業に生かすことができた。 ・社会科の研究授業では、学習したことを根拠に、自分の考えを発表する姿がみられた。 ・授業の中で、自分の考えを話したり書いたりするとともに、友達の考えを聞くことができるようになってきている。	・一人一人が自分の考えをもって学習に取り組めるよう、思考の為の時間を確保する。 ・授業の中で考えたことや分かったことを振り返りに書くことで自己の変容に気付くことができるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた学習に取り組む、学習や生活のきまりを守って学校生活を送ることができている。 ●家庭での読書時間が十分とれていない。自分から課題を見つけて取り組むことが苦手で、進んで学習する態度の定着に課題がある。	・学ぶ意欲を持ち、自ら課題を見つけ、自主的に学習に取り組む。 ・読書に親しむことができる。	・授業の中で児童が疑問を感じ、その疑問が解消され、理解や発見の喜びに変わるような授業を行う。 ・週に1回図書室を利用し、読書に親しむ機会と時間の確保する。 ・振り返りの視点を児童に示し、記述させる。 ・各学年・教科・指導内容の特質に応じたノートの指導の充実を図る。	なし	・授業の中で児童が疑問を感じ、理解や発見の喜びに変わるような授業を行うことについては、各学年・単位時間における活動は充分に行うことができた。 ・低学年の図書室利用は多いが、中学年、高学年の図書室利用は少なかった。 ・振り返り等を、ICTで行うことで、学習内容をより深めることができた。	・朝の活動等で、読書の時間を設定したり、図書室利用の回数を増やしたりして、読書に親しむ態度を育成する。 ・自ら課題を見つけ、自主的に取り組むことに課題があるため、教員の問い返しや発問の改善を進める。 ・発表のみならず、文章やICTといった、多様な表現方法によって、一人一人の活躍の場を作る。